

JST科学コミュニケーションセンターの 今後の取組について

平成28年3月30日



科学技術振興機構

未来創成型イノベーションを先導するJST

JSTの取り組みは、社会からの理解・信頼・支持を得ることが大前提です。

1999年ブダペスト宣言で述べられた「社会における科学と社会のための科学」という言葉を

改めて思い起こし、

国民と研究者の間の対話をさらに促進するとともに、透明性と説明責任を徹底してまいります。



平成27年10月1日 理事長 濱口道成

(JST HP理事長挨拶より)

現状の課題

- 「対話」を行おうとする主体は複数あり、過去の実践もある。しかし、参加経験のある人は少なく、社会に認知されていない。
- 「対話」の意義が意識共有されていない。原因の一つには、認知度の低さ、また「対話」を何に繋げるか意識共有されていないことがある。
- 「対話」「協働」の活動が社会に認知され、共有されるための場とノウハウと人のネットワークが不足。
「対話」「協働」に必要な要素の相互学習と人材育成が必要。

(CSC調査・研究まとめ)

JSTの主な事業

科学技術イノベーション創出の推進 ～バーチャル・ネットワーク型研究所の構築～

重点分野戦略

グリーンイノベーション
ライフイノベーション
ナノテクノロジー・材料
情報通信技術
社会技術

戦略プログラム
パッケージ

戦略的な基礎研究の推進

産学が連携した研究開発成果の展開

東日本大震災からの復興・再生への貢献

国際的な科学技術共同研究等の推進

知的財産の活用支援

科学技術イノベーション創出のための科学技術基盤の形成 ～イノベーションを支えるソフトインフラの構築～

知識インフラの構築

科学技術イノベーションの創出のための研究基盤の整備として、科学技術情報の整備や流通を促進。

次世代人材の育成

「伸びる子を伸ばす」施策と「科学技術教育能力を向上させる」施策を通じた優れた才能を有する次世代人材の育成。

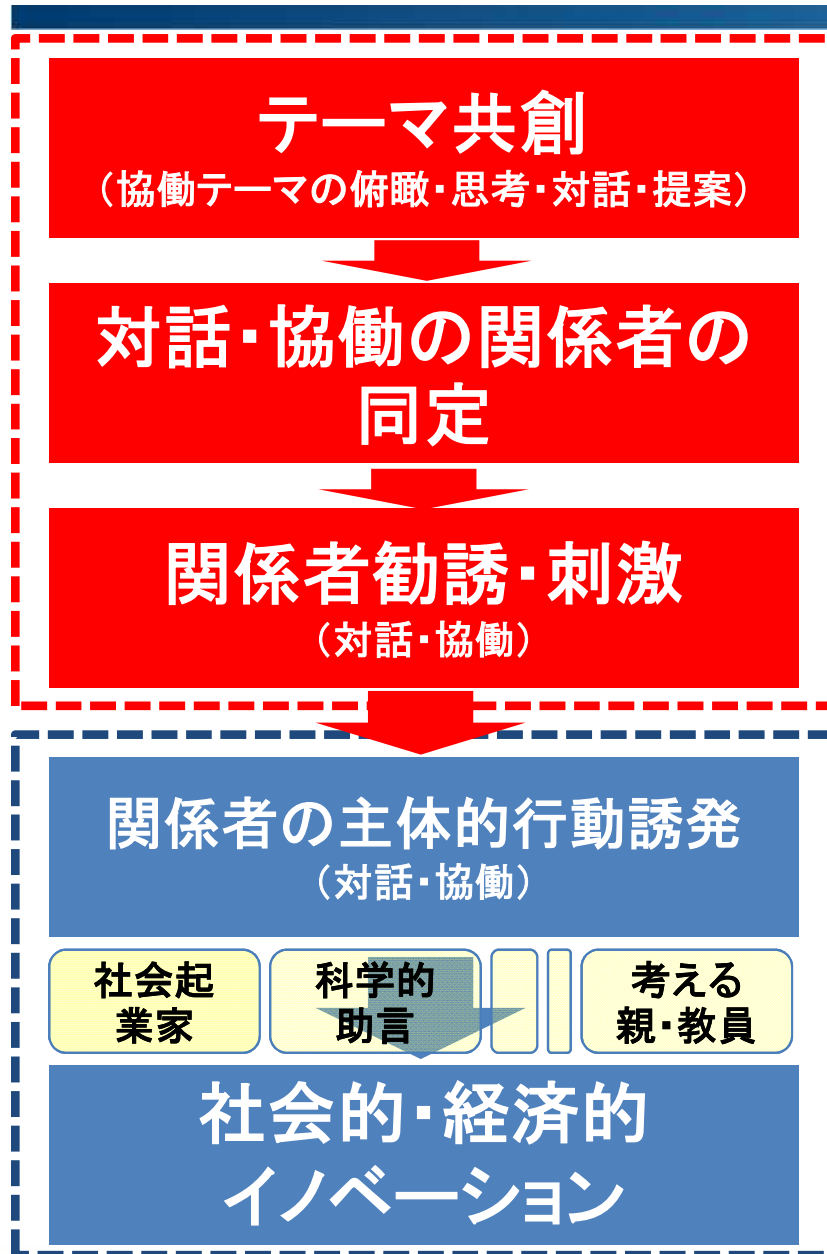
科学コミュニケーション

双方向の対話活動推進、科学者によるアウトリーチ活動促進、未来館など場の運営・提供、人材育成などを一層促進。

科学コミュニケーションセンター（CSC）
日本科学未来館

研究開発
戦略の立案

科学コミュニケーションによるイノベーションモデル



- 科学コミュニケーションの目的はコミュニケーションではない
- 社会的・経済的価値を生み出すイノベーションが目的
- CSCではその一環として、科学と社会の主要な協働テーマを共創し、関係者を同定し、国内外の関係者の勧誘・刺激を通じて、関係者の主体的な行動を誘発

科学コミュニケーションセンターの役割

信頼蓄積の組織化

- 専門知識・経験、公共善への情熱、実行力を兼ね備えた人を多様な年代、セクタ、性別、分野から探し出し、その人たちとの信頼関係を組織的に蓄積する。この人たちの広い見識をつなぎ、社会全体で共有していく価値のある協働テーマを共創する。

信頼ネットワークの効果的な活用

- 協働テーマを共創し、蓄積された信頼のネットワークに個別具体的な活動の主体を勧誘し、刺激する。
- RISTEX、未来館、戦略創造等のJST内部署と連携・協力して共創型の科学技術コミュニケーションを先導する。

科学コミュニケーションセンターの今後

サイエンスアゴラネットワーク

- ✓ 各地の対話・協働の核となる場をつなぐ
- ✓ 人的・知的ネットワークの構築
- ✓ 科学者・専門家・ノウハウの相互紹介
(コンサルティング)等

JSTとしての科学コミュニケーション

- ✓ 科学コミュニケーション実践
- ✓ 海外連携



ファンディング(支援事業)

各地に対話協働活動の核となる組織・機関の育成

社会的議題を可視化するための意見集約・抽出と有識者議論

有識者議論
⇒アジェンダ設定



社会の声集約(市民対話やアンケート調査等)
⇒アジェンダ(案)抽出



サイエンスアゴラ(年次総会)

- ✓ 全国各地・海外の活動をつなぐ対話・協働プラットフォームの提供
- ✓ 人的・知的ネットワークの拡大
- ✓ 研究者、政策立案者、企業、教育者、一般市民など、異分野の人同士の情報発信と議論の場を提供

メディア

(サイエンスポータル、サイエンスチャンネル、サイエンスウインドウ)

- ✓ 社会的課題を共有(アジェンダの提示とその基礎情報の発信)
- ✓ 各地の対話・協働活動の情報集約・発信
- ✓ 各アジェンダに関する多様な見解を分析し、論説等を発信

科学コミュニケーションセンターの今後

サイエンスアゴラネットワーク

✓ 各地の対話・協働の核となる場をつなぐ

- ✓ **共有** ネットワークの構築
- ✓ ウハウの相互紹介
- ✓ (オンライン) 等

JSTとしての科学コミュニケーション

支援・実践

ファンディング(支援事業)

各地に対話協働活動の核となる組織・機関の育成

社会的議題を可視化するための意見集約・抽出と有識者議論

テーマ共創

(市民対話やア
等)
(案) 抽出



科学と社会の
関係深化

未来共創
イノベーション

サイエンスアゴラ(年次総会)

対話・協働プラッ

可視化

✓ 研究者、政策立案者、企業、教育者、一般市民

共有・分析・発信

メディア

(サイエンスポータル、サイエンスチャンネル、サイエンスウインドウ)

- ✓ 社会的課題を共有(アジェンダの提示とその基礎情報の発信)
- ✓ 各地の対話・協働活動の情報集約・発信
- ✓ 各アジェンダに関する多様な見解を分析し、論説等を発信

CSC・未来館の連携—第5期基本計画

第6章 科学技術イノベーションと社会との関係深化

ステークホルダーによる対話・協働、共創に向けた各ステークホルダーの取組、政策形成への科学的助言、ELSI

共有 展開



各地の対話・協働の核となる場・人・知をつなぐ
全国のURA・研究者へ伝承、担い手の多様化を図る

科学と社会の
関係深化

未来共創
イノベーション

支援・実践 共創の場 Miraikan

各地に対話・協働活動の核を育成
対話・協働・共創の場の創出

意識改革

研究者の社会に向き合う姿勢の涵養
社会の科学リテラシーの涵養

可視化

異分野の人どおしの情報発信と議論の場

テーマ共創 課題抽出

共有・分析・発信

課題抽出型科学コミュニケーション活動の強化

社会的課題を共有、対話・協働活動の情報集約・分析・発信